

YOUTH MANNA

Grace
Community
2024
Be

Acts 2:42



彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。
使徒の働き 2章42節

2024/6/24(月)

I サムエル記 8章

- イスラエルの長老が“私達を裁く王を立ててください”と言ったのはなぜだろう。(3,5節)
- サムエルの祈りに対する主の答えはどのようなものだっただろうか。(7-9節)
- サムエルの言葉を聞いた民の反応はどのようなものだっただろうか。(19-20節)

長老達は、国が立ち行かないことを、自分達に原因があるのでは？と考えるのではなく、サムエルとその子息のせいにし、彼らに代わる王が欲しいと切望した。

★みんなは今、うまくいっていないことは何かあるかな？それを人や環境のせいにするのではなく、自分に何か要因があるか、自分にできることはあるか、神様に祈って示してもらおう。

2024/6/25(火)

I サムエル記 9章

サムエルとサウルがどのようにして出会うのかに注目してみよう。きっかけは父の雌ろばがいなくなったことだった。サウルは父に言われたから探しに出かけた。そしてしもべの提案で「神の人」に会いに行くことにした。一方、サムエルはサウルが来る前の日に神様からそのことを聞かされていた。そして、その者こそ神が王として立てる器であることを示される。

- ・自分の人生を振り返って、神様が導いたことだったと思えることはある？
- ・全てを見通しておられるイエス様が、今日も君と共にいてくださる。イエス様に信頼し、祈って今日も出ていこう！

2024/6/26(水)

I サムエル記 10章

サムエルがサウルに語ったことは、彼が「新しい人に変えられる」ということだった(6)。サウルは一見して立派で育ちも良く、選ばれる資格があるように人は見るかもしれない。だけど、神様が見ておられるのは心であり、その内面だった。

サムエルは個人的にサウルに語った後、ミツパに民を集めて、公にサウルが主に選ばれた王であることを示した(17-)。26,27では王の選びに対して、対照的な人々の反応があるね。

- 自分が変えられる必要を感じている？それはどのようなことだろうか？
- 自分の考え以上に、神様のことばに従うためには、どのような心となる必要があるだろう。

2024/6/27(木)

I サムエル記 11章

突然にアンモン人ナハシュがせめて来て、残酷な要求をする。非常な恐れが民のうちにあったけれど、サウルがこれらのことを聞いたとき、神の霊が激しく下り、サウルの呼びかけに応えた人々によって劇的な勝利を収める。

思いがけない試練であったけれど、この出来事を神様が用いて、サウルが選ばれた王であることが証明されることになった。人の目に試練と見えることも、神様の御手の中で用いられることがある。

- 今君が試練と思うことは何だろうか？
- 良い時も悪い時も、神様に目を向けて歩むことができるように祈ろう！

2024/6/28(金)

I サムエル記 12章

民が自分たちを治める王を願った意味についてサムエルは語っているよ。

- 17vを読もう。民が王を求めたことはなんと書いてあるかな？良いことだった？それとも悪？
- なぜそう言われているんだろう？12-13vにその理由が書いてあるよ。
- 他国を羨ましがり、神様が守ってくれることを忘れた結果、民は王を求めたね。でも神様はそれをも許して下さった。大切なのは自分の選びが自己中心だったことに気づいて、神中心に軌道修正することじゃないかな。誰でも失敗はある。神様は赦してくれる。そう思ったなら、きみにできることがあるんじゃないかな。

2024/6/29(土)

I サムエル記 13章

自分の目に都合がよく見えることを優先して戦争をしかけた結果、イスラエルの人々はピンチに陥っていたね。

そんな中サウル王は国のリーダーとして、国の人たちを不安にさせることなく、誰よりも神様に信頼する責任を持つべき人だった。だけど、大変な状況になって兵たちを引き止めたい思いから、預言者サムエルを待たずに自分がすべきでないささげ物の儀式をしてしまったんだ。

このことは神様がサウルを王様から外すほどの問題となってしまった。私たちにも神様のしてくださることを待たずに、自分の力でなんとかしようとしてしまうことはないかな？神様への信頼が強められるよう祈っていこう！

2024/6/30(日)

I サムエル記 14:1-15

神様は私たちに失敗を克服する機会を与えてくださいます。そのやり直しとは、信仰の立て直しです。神様の前に出て自分を探って、悔い改めて神様に信頼し直す者を、神様は再び用いてくださいます。

ヨナタンは、イスラエルが苦境に陥った発端の責任を自覚していましたが、神様に対する希望を捨てませんでした。ヨナタンの戦いの動機は信仰です。以前、ヨナタンは勢いのままペリシテ人の先陣に攻め入りましたが、今回はそうしませんでした。ペリシテ人の反応を聞いて、それを神様のしるしとして冷静に行動しました(9-12)。神様は、ヨナタンの信頼に応じて彼を再びお用いになりました。

私達も失敗の中に沈んだり、楽観主義で自分を元気づけるのではなく、神様によって変えられ続けて神様のみこころを行う者となりましょう！